

平成29年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月28日実施)	総合評価(4月4日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	<p>・中等教育学校における教育課程の基礎の特例等を通じて、6年間の一貫した教育課程を編成し、多岐多岐な教育内容の関わりを通じて、個性や創造性の伸長を図るよう、カリキュラム・マネジメントに取り組む。</p> <p>・教科・科目の学習を通して知識・技能を基礎としながら、自ら課題を見出し、課題を解決するため、他者と協働する学習に取り組む。自らを探究する学習を通して、組織的な授業改善を推進し、科学的・論理的思考力の育成に取り組む。</p>	<p>①主体的対話的で深い学び（アクティブラーニング）に向け、組織的な授業改善に取り組む。後期課程における100分授業の授業展開・内容の検討し実践する。</p> <p>②6年間一貫教育を活かしたカリキュラムを構築し、継続して系統立てた指導ができるようとする。</p>	<p>①教科会を計画的に実施し「主体的対話的で深い学び」（アクティブラーニング）を実践する割合が4年間で増加した。</p> <p>②教科長会を「学びP.T」と位置づける。</p> <p>③学校として6年間の一貫した教育内容を構築できた。</p>	<p>①生徒による授業評価の「生徒主体的授業の工夫」における肯定的回答の割合が、前年度と比較し前期課程で2%（77.4%→79.7%）、後期課程で5.6%（77.0%→82.6%）上昇した。各教科で「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業をした割合であると考えられる。</p> <p>②職員アンケートの結果、6年間の一貫した教育内容の構築が進んでいるかについて肯定的回答は19%であった。また推進途上であると考えられる。</p>	<p>①100分授業の確保がまだ実施できていない。さらに効果的な授業展開を検討する必要がある。</p> <p>②学校として組織的に6年間の教育内容の構築を検討する機会の確保が必要である。「学びP.T」を活性化するとともに、教科会を定期的に開くことで、まず教科として6年間の一貫した教育内容の構築を図る必要がある。</p>	<p>①生徒が自分自身で目標設定ができるよう工夫が必要である。やらされているという感じではなく、主体的に考えられるよう、各々の生徒が目標設定し、自分の伸びを実感できることと良い。授業は知識の伝達としての「教える」授業にないといけない。生徒が知識を獲得する授業をやるべき。</p> <p>②どこまで教えて、何を考えさせるのか、その配分が教科で考えることが必要。予習により「教える」授業を減らすなど、考えて議論する授業をできるように研修して、授業改革を進めてほしい。</p>	<p>①生徒の主体的な学習を促す授業改善が進んでいない。また個々の生徒が目標を設定するまではできていない。また、各々の生徒が目標設定し、自分の伸びを実感できることと良い。授業は知識の伝達としての「教える」授業にないといけない。生徒が知識を獲得する授業をやるべき。</p> <p>②どこまで教えて、何を考えさせるのか、その配分が教科で考えることが必要。予習により「教える」授業を減らすなど、考えて議論する授業をできるように研修して、授業改革を進めてほしい。</p>	<p>①今後も生徒の主体的・対話的で深い学習が進むようには教員研修会を開くとともに、相互授業や研究授業の実践を進めていく。</p> <p>②個々の教員が授業の中で生徒が考える活動を増やすとともに、教科として組織的に取り組めるようには、教科会を授業時間の中に組み込む。</p>	
2	<p>・学年の枠を超えた活動などを通じて、思いやり的心を持ち、高い規範意識を持ち、自ら進んで未来を切り拓く意欲や行動力がある。豊かな人間性やリーダーシップを備えた次世代を担うリーダーを育成する教育活動を充実させる。</p> <p>・教育相談コーディネーター、スクールカウンセラーを中心とした組織的な教育相談体制を活用し、情報の共有化やケース会議等を実施し個に応じた支援を充実させる。</p>	<p>①「あいさつ、時間、整理整頓」の意識付けを道徳や朝会などの機会を利用して行い、基本的な生活習慣を確立する。また、いじめの早期発見や初め防止に組織的に取り組むとともに、生徒一人ひとりの心に寄り添うコミュニケーションの姿勢で支援することができると期待されている。</p> <p>②教育相談コーディネーター、スクールカウンセラーと指導グループの情報交換を密に行える体制を確保することができた。</p>	<p>①3か月に一度の割合で「あいさつ、時間、整理整頓」の強化月間を設け、全職員が主体的に指導にあたることができた。また、いじめの早期発見に向けて組織的な体制を確保することができた。</p> <p>②教員が生徒一人ひとりの心に寄り添うコミュニケーションの姿勢で支援することができた。</p> <p>③教育相談コーディネーター等と2週間に一度は情報交換を行い個に応じた支援を実施することができた。</p>	<p>①今年度は6月22日、8月28日、11月20日から週に強化週間を設け、「あいさつ、時間、整理」に対して学校全体で指導にあたり、この間毎朝グループメンバーからその目的を説明し、職員も生徒への意識向上を促すことができた。</p> <p>②また、いじめの早期発見や初め防止のために全職員が「いじめの早期発見や初め防止のために」に、積極的に取り組む姿勢で支援することができた。</p> <p>③また、スクールカウンセラーも積極的に活用し、個に応じた支援を充実させる。</p>	<p>①学校教育活動のすべての基本となる安定した環境を確保するために、「あいさつ、時間、整理」をキーワードとした取り組みを今後も継続的に行う。次年度は3か月に一度の割合で状況の見極めにも強化週間・週間を設けて取り組む。</p> <p>②また、いじめの早期発見や初め防止のために全職員が「いじめの早期発見や初め防止のために」に、積極的に取り組む姿勢で支援することができた。</p> <p>③教育相談コーディネーター、スクールカウンセラーと指導グループはみなくとも2週間に一度、また案件をもつ学年は指導グループに関わらずその都度情報交換を行い個に応じた支援を常にできる体制を確保した。また、スクールカウンセラーも事業により積極的に活用する。</p>	<p>①入学を目指してがんばってきて目標が達成されたが、学校生活の中で自信をなくすケースが多い。生徒が自分の専攻科を見つかるような工夫が必要である。1年からの初めの伸びがで始める時期と5～6月にかけて、自信を失くせることがある。</p> <p>②すべての生徒の心の動きを把握するために、教育相談コーディネーター・スクールカウンセラーを積極的に活用し、場合に必要に応じてスクールカウンセラーと連携し、個に応じた支援体制を確保することが必要である。</p>	<p>①3か月に一度の割合で強化週間を実施し、教員の自らの姿勢を正したその後の生徒の現状を把握し指導し活かし、校長先生を生徒を活用し生徒相互の意識の向上を図る。P.Tとも連携し組織的に取り組む体制を構築する。</p> <p>②教育相談コーディネーター、スクールカウンセラーと適宜情報交換をし、生徒の現状を把握していく。全職員が生徒一人ひとりに寄り添った支援体制を確保していく。</p>		
3	<p>・これらの国際社会に対応する幅広い教養と社会性・創造性を備え、よりよい社会構築に貢献する意欲や資質・能力を備えた人材の育成に取り組む。生徒一人ひとりのキャリアプランニングの充実に向け支援する。</p> <p>・段階的・系統的な進路指導を実施し生徒の進路意識を高め、生徒の高い進路希望の実現に向け組織的な支援をする。</p>	<p>①「総合的な学習の時間」では「キャリアプランニング」と「探究活動」を位置づけ発達段階に応じたキャリアプランニングと主体的に課題を解決する姿勢を身に付け社会に貢献する次世代を担うリーダーの育成に向け取り組む。</p> <p>②「進路の引き」を併成し、進路実イダンスを計画的に実施することで生徒の進路意識を高め、因立立大受験をはじめ生徒一人ひとりのより高い進路実現に向けて組織的に取り組む。</p>	<p>①前期課程の「総合的な学習の時間」の成果を踏まえ、後期課程での「自己発見チャレンジ」および「かながわ次世代教育」でのテーマ設定につながる。将来の目標に関連したテーマを設定しより充実した探究活動を目指す。</p> <p>②「進路の引き」を併成し、進路実イダンスを計画的に実施することで生徒の進路意識を高め、因立立大受験をはじめ生徒一人ひとりのより高い進路実現に向けて組織的に取り組む。</p>	<p>①前期課程での取組みが、後期課程での「自己発見チャレンジ」および「かながわ次世代教育」でのテーマ設定につながる。将来の目標に関連したテーマを設定しより充実した探究活動を目指す。</p> <p>②「進路の引き」を併成し、進路実イダンスを計画的に実施することで生徒の進路意識を高め、因立立大受験をはじめ生徒一人ひとりのより高い進路実現に向けて組織的に取り組む。</p>	<p>①前期課程での取組みは後期課程でのテーマ設定とのつながりを意識したものでない。設定したテーマに合った研究授業・大学などで活動できないというフィードバックがない。平日等の活用を含めさらなる工夫を促す。さらに、本校卒業生を活用し、在籍する大学等との連携を促進し、生徒一人ひとりの進路実現に向けた支援を充実させる。</p> <p>②進路実現に向けては、研究一人ひとりのキャリア意識の醸成と希望進路の明確化をはかる。同時に、進路希望の実現に向けた支援体制の構築を図る。現役での希望進路実現に向けての支援を進める。</p>	<p>①昨年同様、有意義な探究活動を進める生徒が増えている一方で、後期課程を終了する生徒もまだ多い。プレゼンテーション能力は比較的高いが、より内容のある探究活動が実現できるような指導が必要である。</p> <p>②現行のキャリアプランニングをさらに充実させる。前期の段階から生徒保護者もサポートできるように充実させる。前期生の進路指導を行う。</p>	<p>①昨年同様、有意義な探究活動を進める生徒が増えている一方で、後期課程を終了する生徒もまだ多い。プレゼンテーション能力は比較的高いが、より内容のある探究活動が実現できるような指導が必要である。</p> <p>②現行のキャリアプランニングをさらに充実させる。前期の段階から生徒保護者もサポートできるように充実させる。前期生の進路指導を行う。</p>		
4	<p>・地域の小・中学校や大学、研究機関、企業、NPO法人等外部機関と連携し協働する取組を推進する。</p> <p>・6年間の一貫教育の本校の魅力を広く県民に広報し、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>①地域の大学や研究機関だけでなく、PTAと連携した教育活動を充実させる。部活動や委員会などの地域と協働した活動の充実を図る。</p> <p>②地域原中教育学校の特色ある教育内容を広報し、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>①PTAとの関係を強化し、特別土曜講座の講師として招聘するなど、協力を図る。地域と協働した活動の充実を図る。地域の大学や研究機関等と連携し、特別土曜講座の内容等を充実させる。</p> <p>②学校の魅力や行事等を、説明会、授業見学、ホームページ、学年通信等で効果的に伝える。</p>	<p>①学校内の活動に、より深くPTAが関わることができた。また地域の活動により、生徒と地域との交流が深まった。特別土曜講座のアンケートにおいて、肯定的評価が8割以上だった。</p> <p>②保護者の来校機会が昨年度より増加した。学年通信等を定期的に発信し効果的に活用できた。</p>	<p>①生徒会主催のものにPTAが関わることができた。生徒たちのものに生徒たちが関与している関係が深まった。地域貢献活動を計画していたが、実際に行動することができなかった。</p> <p>②特別土曜講座のアンケート結果において、肯定的評価が10割であった。</p> <p>③保護者の来校機会については前年度とほぼ変わらなかった。</p>	<p>①生徒会主催の行事においてPTAと共に、生徒たちのペースで物事を進めたいという関係が深まった。地域貢献活動の時期を検討する必要がある。</p> <p>②生徒会主催の行事においてPTAと共に、生徒たちのペースで物事を進めたいという関係が深まった。地域貢献活動の時期を検討する必要がある。</p> <p>③中受生近隣の小学校での職業体験を行ったが、中受でもよかった。ぜひ継続してほしい。</p> <p>④学年だよりは発行が多く、学校の様子はよくわかる。共通の家庭も多く、家で子どもと向き合う時間が少ないので、保護者が学校に来る機会をもっとあるといい。</p>	<p>①地域貢献活動については、時期の見直しを含めて拡充を図る。</p> <p>②特別土曜講座より行っている特別土曜講座に、地元の人や生徒の保護者も参加するなど、講師の拡充を図るとともに、保護者が来校する機会を増やす。</p>		
5	<p>・教育公務員としての高い使命感・倫理観を持ち職務を遂行するとともに、各グループ・学年を超えた協働体制を整え全職員が責任・使命感を持ち、入学決定業務、個人情報保護や適正な会計処理等事故・不祥事防止に取り組む。</p>	<p>①入学者決定業務において採点等改善策を検討し実践する。</p> <p>②事故・不祥事防止研修、いじめ・体罰防止研修、会計処理研修等の職員研修を適切な時期に計画し実施する。</p>	<p>①入学者決定業務における昨年度の課題を共有し、改善を図る。事故ゼロの継続に向け組織的に取り組む。</p> <p>②職員研修の年間計画を立てて実施する。</p>	<p>①入学者決定業務において、組織の一端として協働意識を向上させ、事故ゼロの継続に向けて意識を持って行動した。</p> <p>②事故・不祥事防止研修、いじめ・体罰防止研修、会計処理研修を年間計画に従って開催し、職員に注意喚起することができた。</p>	<p>①昨年よりも更に受検生が増える中、除算・乗算・点検と合否の決定に至る過程において課題を共有し、事故が無く業務をこなすことができた。</p> <p>②事故・不祥事防止研修を年間計画に従って開催し、事故・不祥事防止について注意喚起することができた。</p> <p>③いじめ・体罰防止研修については、生徒一人ひとりに寄り添う指導が不十分な面があった。</p>	<p>①課題を共有するために、G.L全員が業務に理解していただくことが必要である。</p> <p>②中受教育者という周囲からの期待に十分に応えたいと思う。保護者の期待が大きい。生徒一人ひとりの心に寄り添った指導を心がけ、声かけ等丁寧に行う。いじめ・体罰防止や入学者決定業務、会計処理等職員研修を適切な時期に計画し実施する。</p>	<p>①事故なく入学者決定業務を行うことができた。今後もより円滑な業務ができるよう組織的な業務運営の改善を図ることが必要である。</p> <p>②事故・不祥事防止については、研修等を通じて職員全体で意識をもって取り組むことができる。生徒一人ひとりに寄り添う指導についてはまだ不十分な面があった。</p>	<p>①入学者決定業務においては、教員の異動等も考え、次年度より円滑に運営できるようにマニュアル化や円滑な体制をしっかりと必要とする。</p> <p>②事故・不祥事防止については、研修等を通じて職員全体で意識をもって取り組むことができる。生徒一人ひとりに寄り添う指導についてはまだ不十分な面があった。</p>	